

## テニスにおけるプレースタイルとその特徴 に関する調査研究

山田幸雄, 徳田潤子\*

An investigatory study of Playing-style in tennis  
and their characteristic

Yukio YAMADA\*, Junko Tokuda\*\*

### Abstract

A questionnaire was answered by 440 members of tennis teams in the first to the third division of Kanto-Universities-Tennis-League to classify the styles of tennis players and to clarify what characteristics they possess. Main results were as follows.

- 1) The number of players were in the order of baseline-style (166 players), combinationary-style (158), and net-style (116) when classified positionally, and defensive-style (171), intermediate-style (140), and offensive-style (129) when classified either offensive or defensive.
- 2) When positional classification and offensive/defensive classification were combined, in net-style, 69 players were in net-offensive-style and in baseline-style, 98 players were in baseline-defensive-style, both taking large proportion (approximately 60%) of each positional style. In combinationary-style, 60 players were in combinationary-intermediate-style and 59 players were in combinationary-defensive-style, each occupying about 37%. There was less inclination here.
- 3) and, in net-style, 12.1% were of net-defensive-style, in combinationary-style, 24.7% were of combinationary-offensive-style, and in baseline-style, 12.6% were of baseline-offensive-style, all taking small proportion of each positional styles.
- 4) The characteristics of styles classified positionally were like the following: The net-style players had confidence in their overall abilities.  
The baseline-style players did not have confidence in their net-play.  
The combinationary-style players were in between the two styles.
- 5) When positional classification and offensive/defensive classification were compared, similarity could be seen generally between offensive-style and net-style, intermediate-style and combinationary-style, and defensive-style and baseline-style.
- 6) The characteristics of the styles made by combining positional classification and offensive/defensive classification were like the following: The net-offensive-style players had confidence in their overall abilities in tennis, but net-defensive-style players seemed to have less confidence in their net-play. And, players in the baseline-defensive-style had confidence in their endurance, and players in the baseline-offensive-style had confidence in their offensive shots and ability to play the game positively.

Key words: Tennis, Playing-style

\*筑波大学体育科学系

## I 緒言

テニスの指導をする場合、指導者は技能向上を目指すためにプレーヤーの特徴を色々な角度から把握しようとする。それら把握した多くのデータをもとに、当てはめることのできるプレーヤーのスタイル分類表があらかじめあるならば、より効率的な指導を行えるのではないかと考える。

これまで、テニス選手のプレースタイルは大きく3つ<sup>(1)(2)(3)(4)(5)</sup>に分類されてきた。それらは、ネットへつめてのボレー、スマッシュを主体とするネット型、ベースラインでのグラウンドストロークを主体とするベースライン型、及びその2つをミックスした併用型である。しかし、実際のプレーを観察してみると、これら3つの型の中にもそれぞれいくつかのタイプがあることに気づく。たとえば、ベースライン型の中には、自分のミスだけは極力避けて粘り抜くスタイル、ベースラインからでも高い打点で積極的に攻めていくスタイル等が考えられ、これらは区分したほうが指導場面ではプレーヤーを把握しやすいものと思われる。このことは、ネット型、併用型にもあてはまる。

ところで、テニスのプレースタイルは技術的、心理的、及び体力的能力等が重なり合って構成されているものと考えられる。今日まで、このような立場に立った研究は少ない。その中で久保田<sup>(6)</sup>は、試合での総ポイント数に対するネットプレーでのポイント決着数からネット型、ベースライン型を分類し、性格特性や空間認知能力等との関連性を検討し、ネット型のほうが瞳孔間距離が長く、体重が大きく、知的に高いと報告している。さらに、H.P. Graham<sup>(7)</sup>は攻撃性に焦点をしばり、テニスでのコート攻撃性と一般的な心理的攻撃性の関連性を検討した。コート攻撃性の評価はボールスピード、ボールの回転、ゲームの展開方法等から算出し、コート攻撃

性と心理的攻撃性には大きな関連があることを報告した。これらのことは、ベースライン型は守りのスタイルばかりでなく、攻撃的なスタイルも存在することを示唆している。逆に、ネット型にも守りのスタイルが存在することも考えられる。

そこで、本研究では、まず、テニスプレーヤーを対象としたアンケート調査を行い、ゲーム時について対戦相手と比較した時のネットへつく比率をもとにした分類（以下、位置型分類という）と攻守型分類の2つの立場からプレースタイルを分類し、今まで、あまり考えられなかったベースライン—攻撃型、ネット—守備型等をはじめとした各プレースタイルがどのような比率で存在するかを確認することを第1の目的とした。さらに、ゲームでのネットラッシュの頻度、自分及び相手がネットまたはベースラインのどちらかのポジションに位置した場面（以下、基本的場面という）での心理的安定感等についての意識と技術的、心理的、及び体力的能力について自己評価を行わせ、上述したプレースタイルがどのような特徴を持つのかを見い出すことを第2の目的とした。

なお、本研究では、調査による自己評定を用いたが、これらは、今後、客観的データによる分析の際のスキルテスト、心理検査、及び体力測定として、どのような項目を用意すべきかの検討資料として役立つと考える。

## II 方法

### 1 調査対象

関東大学テニスリーグの1～3部のテニス部員の内、返送されてきた440名（男子312名、女子128名）を対象とした。調査用紙は各大学のテニス部の代表者へ一括して郵送し、また、返送もその代表者が一括して行った。今回は、全体的な傾向をつかむことを目的としたので、技能レベル及び男女差は問題にしな

かった。

## 2 調査内容

まず、プレースタイルを分類するために位置型分類と攻守型分類について3段階で回答させた。なお、この時の対戦相手は回答者自身と同レベルとした。これらの質問に対する回答についてクロス集計を行い、そこからプレースタイルを分類した。

ゲームでのネットラッシュの頻度、基本的場面での心理的安定感等についての意識を調べるために10項目を設定し、3段階ないし5段階で評価させた。さらに、テニスの技術的能力について11項目、心理的能力について13項目、体力的能力について15項目の計39項目について、優れている(5点)～劣っている(1点)の5段階で自己評価させた。以上の結果について、筑波大学学術情報処理センターの大型計算機を用い、意識に関する10項目についてはその比率を、さらに、能力に関する39項目については平均、標準偏差を求め、それぞれ2つのプレースタイル間の平均値の差のt検定を行った。

## Ⅲ 結果及び考察

### 1 プレースタイルの分類について

表1の縦軸から明らかなように位置型分類からみると、最も多いのがベースライン型(ネットへつく比率が相手より少ない者、以

下ベース型という)であり、次いで併用型(半々の者)、ネット型(ネットへつく比率が相手より多い者)の順であった。攻守型分類では守備型が最も多く、次いで中間型、攻撃型の順であった。この2つの分類方法では、各スタイルの比率に大きな偏りはみられなかった。さらに、両者を組み合わせて分類すると、ベース—守備型が最も多く、以下ネット—攻撃型、併用—中間型、併用—守備型、ベース—中間型、併用—攻撃型、ネット—中間型、ベース—攻撃型、ネット—守備型の順となった。このように、同じネット型でも細かくみると、ネット—攻撃型が59.5%と一番多く、ネット型に攻撃型の多いことが考えられる。ネットへつくことは多いが守備的であるネット—守備型も12.1%存在した。ベース型を細かくみると、ベース—守備型が59.0%と一番多く、ベース型に守備型が多いことが考えられる。しかし、ベースラインでプレーすることが多いが攻撃型であるベース—攻撃型も12.7%存在した。分類された人数が少ないプレースタイルについても注目していきたいと考える。

### 2 各プレースタイルの特徴について

(1) ゲームでのネットラッシュの頻度、基本的場面での心理的安定感について

ゲームでのネットラッシュの頻度と基本的場面での心理的安定感についての回答からプレースタイルの特徴を比較検討した。

表1 各プレースタイルの人数と比率

	攻撃型	中間型	守備型	計
ネット型	69(59.5%)	33(28.4%)	14(12.1%)	116(100%)
併用型	39(24.7%)	60(38.0%)	59(37.3%)	158(100%)
ベース型	21(12.7%)	47(28.3%)	98(59.0%)	166(100%)
計	129	140	171	440

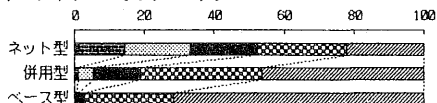
a ネット型, 併用型, 及びベース型について

図1は, ネット型, 併用型, 及びベース型のゲームでのネットラッシュの頻度, 基本的場面での心理的安定感についてその比率を示したものである。

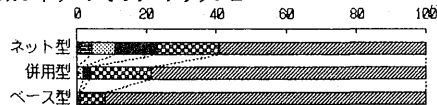
サーブラッシュの頻度は, ファーストサーブでは, ネット型は60%以上行う者が33.7%いたが, 全体的に80%以上行う者から20%以下しか行わない者までの5段階に同じような

比率でわかれた。ところが, 併用型とベース型は20%以下しか行わない者が45.6%, 71.1%とかなり多かった。セカンドサーブでは, ネット型, 併用型, 及びベース型とも, 20%以下しか行わない者が58.6%, 78.5%, 91.6%と多かった。また, レシーブラッシュの頻度は, ネット型, 併用型, 及びベース型はファーストサーブでは20%以下しか行わない者が50.0%, 74.1%, 85.5%と多かったが, セカンドサーブでは27.0%, 43.0%, 67.0%

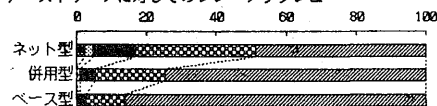
1) ファーストサーブでのサーブラッシュ



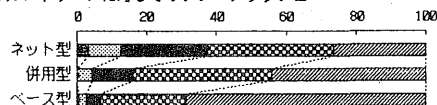
2) セカンドサーブでのサーブラッシュ



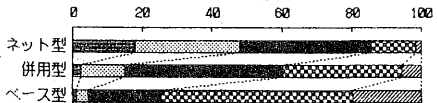
3) ファーストサーブに対してのレシーブラッシュ



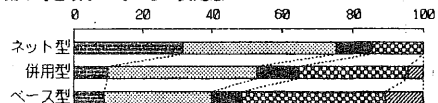
4) セカンドサーブに対してのレシーブラッシュ



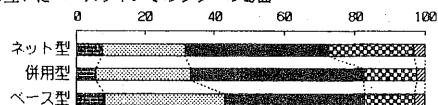
5) ラリーからネットへ出る際の基本的な戦法



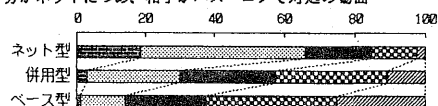
6) 守備の時と攻撃の時の心の安定感



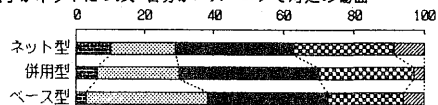
7) お互いにベースラインでのラリーの場面



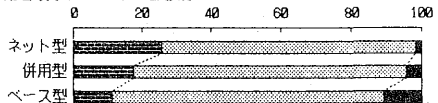
8) 自分がネットにつめ、相手がパス・ロブで対処の場面



9) 相手がネットにつめ、自分がパス・ロブで対処の場面



10) 守備と攻撃についての理想観



- |         |                         |                   |                    |                    |                   |
|---------|-------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 1) ~ 4) | 殆どすべてのポイントで行う (80~100%) | 行うほうが多い (60~80%)  | ほぼ半々 (40~60%)      | 行わないほうが多い (20~40%) | 殆ど行わない (0~20%)    |
| 5)      | できるだけ早くネットにつこうとする       | 相手より早くネットにつこうとする  | 優勢になってからネットにつこうとする | 浅いボールがきた時だけネットへ出る  | できるだけネットに出ないようにする |
| 6)      | 攻撃していたほうが安定感がある         | 攻撃していたほうが多少安定感がある | どちらでも安定感がある        | 守っていたほうが多少安定感がある   | 守っていたほうが安定感がある    |
| 7) ~ 9) | きわめて有利である               | やや有利である           | どちらともいえない          | 多少不安である            | 不安で仕方がない          |
| 10)     | 攻撃型                     | 頭脳型               | 守備型                |                    |                   |

※ 上記の区分は図1~図5に共通

図1 ゲーム時のネットラッシュの頻度, 場面に応じた心理的安定感について(そのI)

と減少した。このことから、ネット型は併用型やベース型よりもサーブラッシュを行う頻度がかなり高いことがわかり、基本戦術にしている者も多いように思われる。しかし、サーブラッシュの頻度は全体的に少なく、難しい技能であるといえる。おそらく、体力的、技術的条件すなわち、サーブのスピードやファーストボレーが優れているという前提がないとなかなか行えないものと思われる。また、レシーブラッシュについては、ネット型はサーブのスピード、コースの強弱に関係なくネットへつこうとする。これに対し、併用型とベース型はスピードやコースがあまくなるセカンドサーブで増加していることから、相手との対応関係によってネットへつく傾向がある。

ラリーからネットへ出る際の基本的戦法は、ネット型は48.3%とほぼ半数が早めにネットへつこうとしているが、逆にベースラインを好む者が14.6%いた。ベース型は74.1%がネットよりもベースラインを好んでおり、併用型はその中間くらいであった。ネット型の多くは併用型やベース型より、ベースラインを避け早くネットへつこうとする。

心の安定状態については、ネット型では75.0%が攻撃しているほうが安定だが、併用型とベース型は攻撃、守りが45.0%ずつとほぼ同じであった。3つの型とも、攻撃、守りのどちらも安定というのは10%程と少なく、どちらかに心理的安定があるといえる。

ラリー場面での有利、不利については、ネット型と併用型は、互いにベースラインでのラリー場面、自分がベースラインで相手がネットの場面では、有利が30%程で全体的に類似した傾向を示した。自分がネットで相手がベースラインの場面になると、ネット型では有利が65.6%、不利が15.5%、ベース型では有利14.5%、不利62.0%とまったく逆の結果を示した。しかし、併用型では、有利30.4%、不利41.8%と他の2つの型程大きな差は見ら

れなかった。このことは、ネット型は自信を持ってネットについているがベース型は不安を感じながらついていることを示している。ベース型はネットへつく時の意識の持ちかたを学習する必要があるといえる。また、3つの型の特徴はベースラインでプレーしている時よりも、ネットへついた時に表れやすいようである。

理想とするテニスは、3つの型とも、確率のテニスが70%強で圧倒的に多かった。ネット型は攻撃力のテニスを理想とする者が多く、逆にベース型は、粘りのテニスを理想とする者が多いのではないかと考えていたが、多くの者が理想とするのはあくまでもネットプレーとベースラインプレーをミックスした確率を重視するテニスであることがわかった。全体的にみて、併用型はネット型よりもベース型に近い。

#### b 攻撃型、中間型、及び守備型について

図2は、攻撃型、中間型、及び守備型のゲームでのネットラッシュの頻度、基本的場面での心理的安定感についてその比率を示したものである。

サーブラッシュの頻度は、攻撃型はファーストサーブで60%以上行う者が31.8%だったが、40%以下しか行わない者も53.5%いた。中間型と守備型は40%以下しか行わない者が80.0%、94.8%であった。セカンドサーブでは3つの型とも40%以下しか行わない者が80.0%以上と多かった。また、レシーブラッシュの頻度は、ファーストサーブに対して60%以上行う者は攻撃型と中間型に6.2%、1.4%だけだったが、セカンドサーブに対しては11.6%、4.3%と少ない割合ながら増加し、40%以下しか行わない者はそれぞれ83%、92.9%から67.5%、81.4%と減少した。これら、攻撃型、中間型、及び守備型は、それぞれネット型、併用型、及びベース型とかなり類似していた。

ラリーからネットへ出る際の基本的戦法

は、攻撃型は半数近くの45.7%が早めにネットへつこうとしているが、ベースラインを好む者も24.0%いた。守備型はベースラインを好む者が69.6%と多かった。中間型はその中間くらいであった。このことから、攻撃型は中間型や守備型よりも、早めにネットへつこうとしている者が多いが、ネットへつかずにベースラインから攻撃していくのを戦法としている者もかなりいるといえる。守備型は、サーブ及びレシーブラッシュはほとんど行わず、ベースラインで勝負するものと思われる。

心の安定状態については、攻撃型では攻撃しているほうが安定は83.7%、守備型では逆に守っているほうが安定は63.1%であった。このことから、攻撃型はかなり心理的攻撃性が高いものと思われ、P.H.Graham<sup>(7)</sup>のコート攻撃性と心理的攻撃性は相関が高いという報告と一致する。

ラリー場面での有利、不利については、3つの型とも、互いにベースラインでのラリー場面、自分がベースラインで相手がネットの場面では類似した傾向を示し、有利が40%程、不利が20~35%程であった。自分がネットで相手がベースラインの場面になると、攻撃型では、有利が55.8%、不利が24.1%、守備型では有利が15.2%、不利が63.1%であった。中間型では有利、不利がほぼ35%程で同数であった。攻撃型の中のネットは不利という25.0%はベースラインから攻撃していくものと思われ、ラリーからの展開の結果と一致するものであり、この2つは本来、区別して考えるべきものといえよう。

理想とするテニスは、攻撃力のテニスが攻撃型で多く39.5%いた。粘りのテニスは守備型に14.6%いるだけで全体的に確率のテニスがかった。

c ネット—攻撃型、ネット—中間型、及びネット—守備型について

図3は、ネット—攻撃型、ネット—中間型、及びネット—守備型のゲームでのネットラッ

シュの頻度、基本的場面での心理的安定感についてその比率を示したものである。

サーブラッシュの頻度は、ファーストサーブで60%以上行う者が、ネット—攻撃型は49.3%とほぼ半数になるがネット—中間型とネット—守備型は10.0%前後であった。セカンドサーブになると、20%以下しか行わない者は、ネット—攻撃型、ネット—中間型、及びネット—守備型で、それぞれ46.4%、75.8%、78.6%であった。また、レシーブラッシュを60%以上行う者は、セカンドサーブに対してネット—攻撃型は8.6%から18.8%、ネット—中間型は0%から6.1%と増加したが、ネット—守備型にはいなかった。

ラリーからネットへ出る際の基本的戦法は、ネット—攻撃型は早めにネットへつこうとする者が62.3%おり、その中でも、とにかくネットへという者が26.1%いたが、ネット—守備型はベースラインを好む者が50.0%いた。ネット—中間型は2つの型の中間くらいであった。

心の安定状態については、攻撃していたほうが安定はネット—攻撃型とネット—中間型で82.6%、69.7%と多いが、ネット—守備型は攻撃しているほうが安定50%、守っているほうが安定42.9%であり差はなかった。

ラリー場面での有利、不利については、互いにベースラインでのラリー場面、自分がベースラインで相手がネットの場面では、ネット—攻撃型とネット—中間型は有利、不利がそれぞれ30%前後で類似した傾向を示し、ネット—守備型は互いにベースラインの場面で有利が他の2型に比べて20%程多く、自分がベースラインで相手がネットの場面では逆に15%程少なかった。自分がネットで相手がベースラインの場面では、ネット—攻撃型とネット—中間型は有利が76.8%、56.5%いたが、ネット—守備型は有利、不利が35%程であった。

理想とするテニスは、攻撃力のテニスが

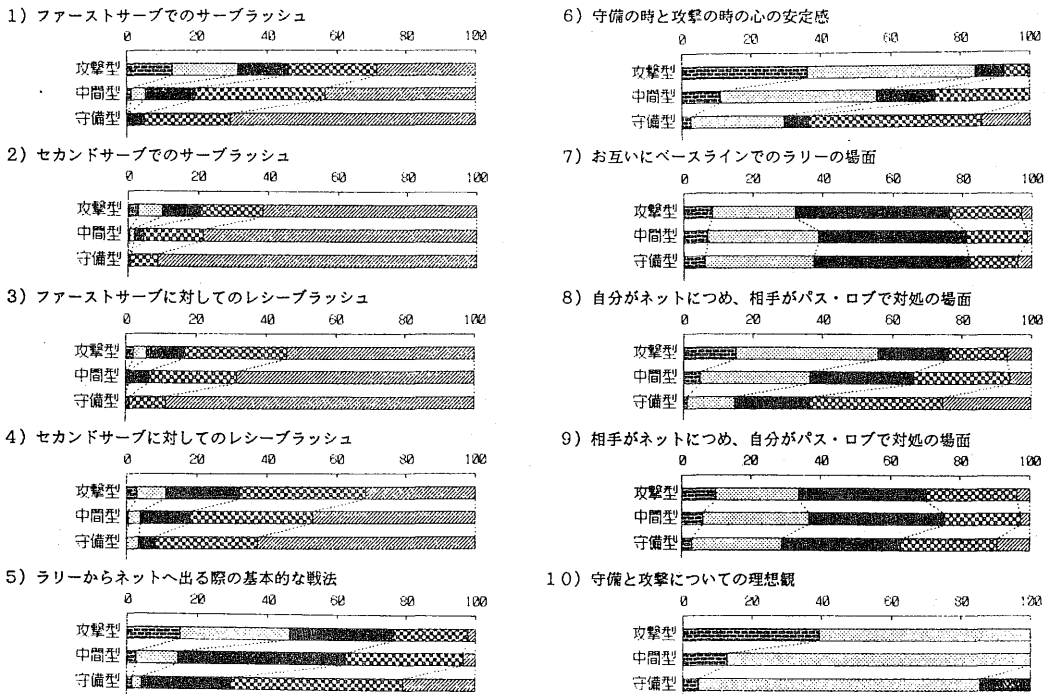


図2 ゲーム時のネットラッシュの頻度、場面に応じた心理的安定感について(そのII)

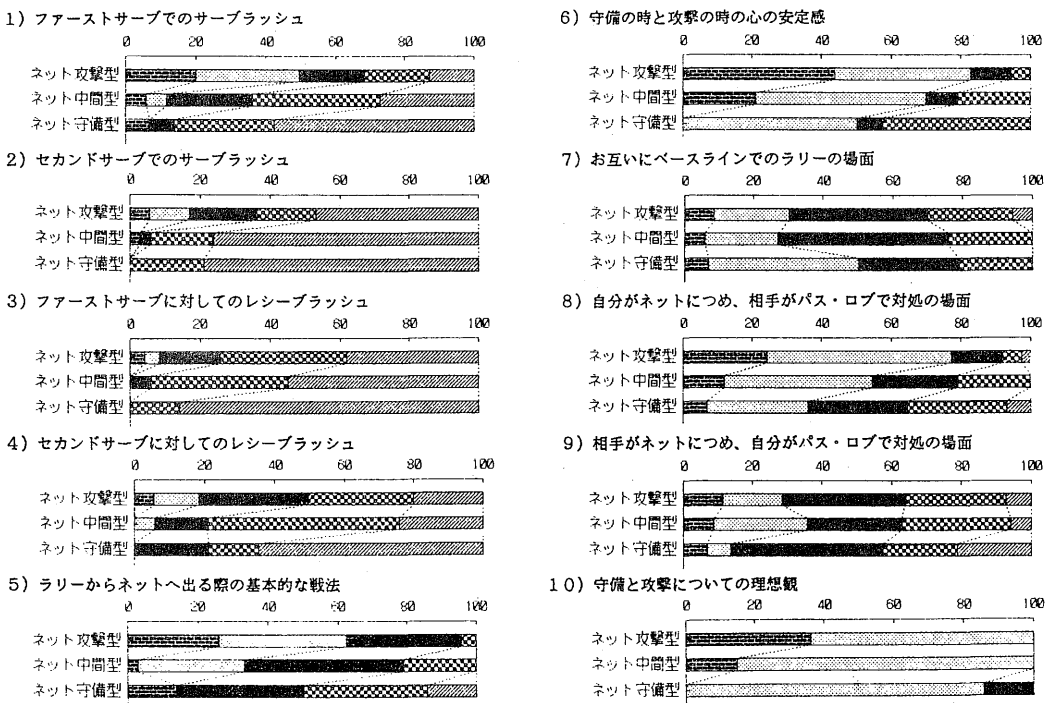


図3 ゲーム時のネットラッシュの頻度、場面に応じた心理的安定感について(そのIII)

ネット—攻撃型とネット—中間型で36.2%，15.2%，粘りのテニスがネット—守備型で14.3%であったが，残りは確率のテニスであった。これらのことから，ネット—攻撃型は，ネットへつく場合，サーブやレシーブラッシュはもちろんのこと，ラリー場面でもあまりラリーはせずに早めにネットへつくようとしていることがわかる。サーブラッシュは難しい技能であり，ネット—攻撃型の実際のサーブ能力とこれらの結果を比較し，サーブラッシュに大切な要因を明らかにする必要がある。また，彼らは精神的にも攻撃していたほうが安定している者が多く，ネットへついた時にはかなり自信をもっているようである。これに対し，ネット—守備型は，サーブやレシーブラッシュでネットへつくことはほとんどなく，ラリー場面でもベースラインからゆっくり展開していくものと思われる。また，心理状態では互いにベースラインの場面のようには相手との距離があると，ゆっくり展開で

きるために自信を持てるが，どちらかがネットへついて展開がはやくなると苦しくなるようである。ネット—中間型は，その2つの型の間ぐらいのスタイルだが，どちらかといえばネット—攻撃型に近い。理想のテニスについては，3つの型とも，確率のテニスが最も多かった。ネット—攻撃型でも，確率の上に立ってネットへつくということがいえる。

d 併用—攻撃型，併用—中間型，及び併用—守備型について

図4は，併用—攻撃型，併用—中間型，及び併用—守備型のゲームでのネットラッシュの頻度，基本的場面での心理的安定感についてその比率を示したものである。

サーブラッシュの頻度は，60%以上行う者がファーストサーブで併用—攻撃型と併用—中間型に15.4%，5.0%いるだけで，セカンドサーブでは3つの型とも，ほとんどいなかった。また，レシーブラッシュの頻度は，3つの型とも，セカンドサーブに対して60%

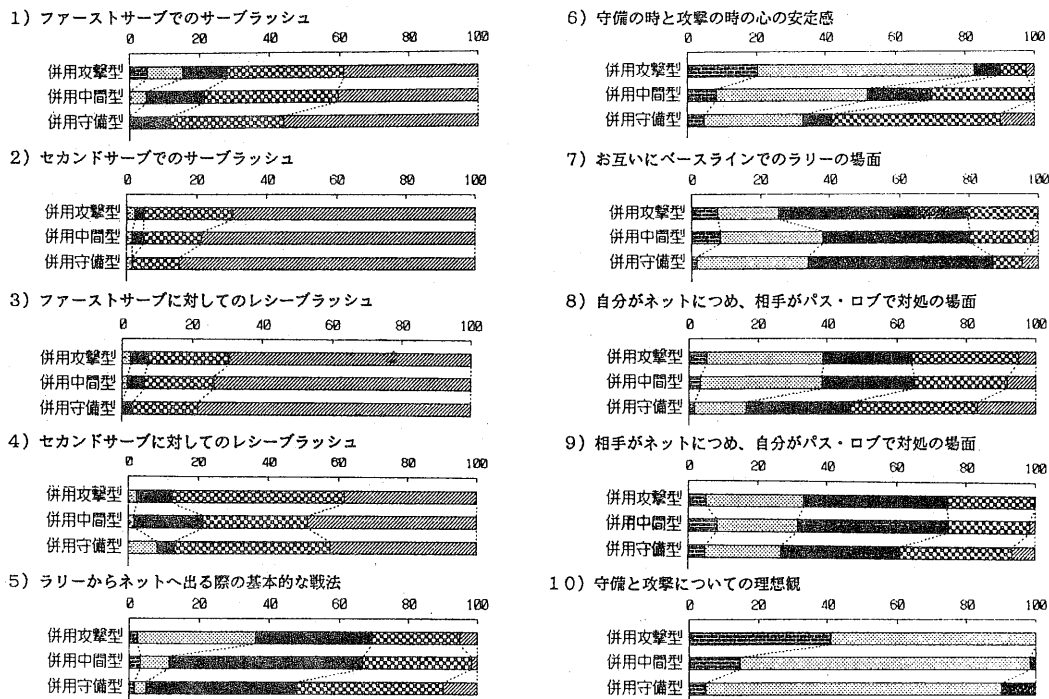


図4 ゲーム時のネットラッシュの頻度，場面に応じた心理的安定感について(そのIV)



以上行う者がほとんどなく類似していた。全体的に、サーブラッシュやレシーブラッシュでネットへつくことはほとんどない。

ラリーからネットへ出る際の基本的戦法は、併用一攻撃型では早めにネットへつこうとする者が35.9%いるが、ベースラインを好む者も30.7%いた。併用一中間型と併用一守備型は早めにネットへつく者は11.6%, 5.1%と少なく、ベースラインを好む者は33.4%, 52.6%であった。

心の安定状態については、攻撃していたほうが安定は併用一攻撃型で82.0%, 併用一中間型で51.6%と多いが、併用一守備型では33.9%と少なくなり、逆に守っていたほうが安定は57.7%であった。

ラリー場面での有利、不利については、互いにベースラインでのラリー場面では、有利が併用一攻撃型で25.6%と他の2つの型より10%程、不利が併用一守備型で13.6%と8%程少なかった。自分がベースラインで相手がネットの場面では、有利は3つの型とも、30%程だったが、不利は併用一守備型が39.0%と他の2つの型より14%程多かった。また、自分がネットで相手がベースラインの場面では、併用一攻撃型と併用一中間型は有利、不利がそれぞれ38%程で類似していたが、併用一守備型は有利17.0%, 不利52.5%であった。

理想とするテニスは、併用一中間型と併用一守備型は確率のテニスで圧倒的に多いが、併用一攻撃型は攻撃のテニスが41.0%, 確率のテニスが59.0%であった。これらのことから、併用一攻撃型はネットへつく方法として、サーブやレシーブラッシュはあまり行わず、ラリー場面ではネットへ早くつく者からベースラインを好むものまで、いろいろなスタイルが存在することが考えられる。これに対し、併用一守備型はベースラインでのプレーを好み、ネットへつくことに不安を感じている。併用一中間型はネットへつく方法は併用一守備型に、心理状態は併用一攻撃型に近い。

e ベース一攻撃型、ベース一中間型、及びベース一守備型について

図5は、ベース一攻撃型、ベース一中間型、及びベース一守備型のゲームでのネットラッシュの頻度、基本的場面での心理的安定感についてその比率を示したものである。

サーブ及びレシーブラッシュの頻度は、60%以上行う者はわずか40%以下しか行わない者がほとんどであった。

ラリーからネットへ出る際の基本的戦法は、3つの型とも、ベースラインを好む者が圧倒的に多く、早めにネットへつく者はごく小数であった。

心の安定状態については、攻撃していたほうが安定はベース一攻撃型では90.5%と圧倒的に多く、これは分類したプレースタイルの中で比率が一番大きかった。ベース一守備型は攻撃しているほうが安定が24.4%であった。ベース一中間型は2つの中間くらいであった。

ラリー場面での有利、不利については、互いにベースラインでのラリー場面、自分がベースラインで相手がネットの場面では、ベース一攻撃型は有利51.0%, そしてベース一中間型とベース一守備型はそれから少しずつ減少するが、3つの型とも類似していた。自分がネットで相手がベースラインの場面では、不利がベース一攻撃型で52.4%, ベース一守備型で73.5%と多かった。

理想とするテニスは、ベース一中間型とベース一守備型は確率のテニスで圧倒的に多いが、ベース一攻撃型では攻撃力のテニスが47.6%いた。これらのことから、3つの型とも、どんな場面でもネットへつくことはあまりなく、ベースラインを中心としたゲームを行い、変化が少ないテニスであることがわかる。また、自分がネットへつくことの自信のなさを表しているといえる。このように全体的に類似しているが、ベース一攻撃型だけは心理的条件、すなわち攻撃しているほうが安

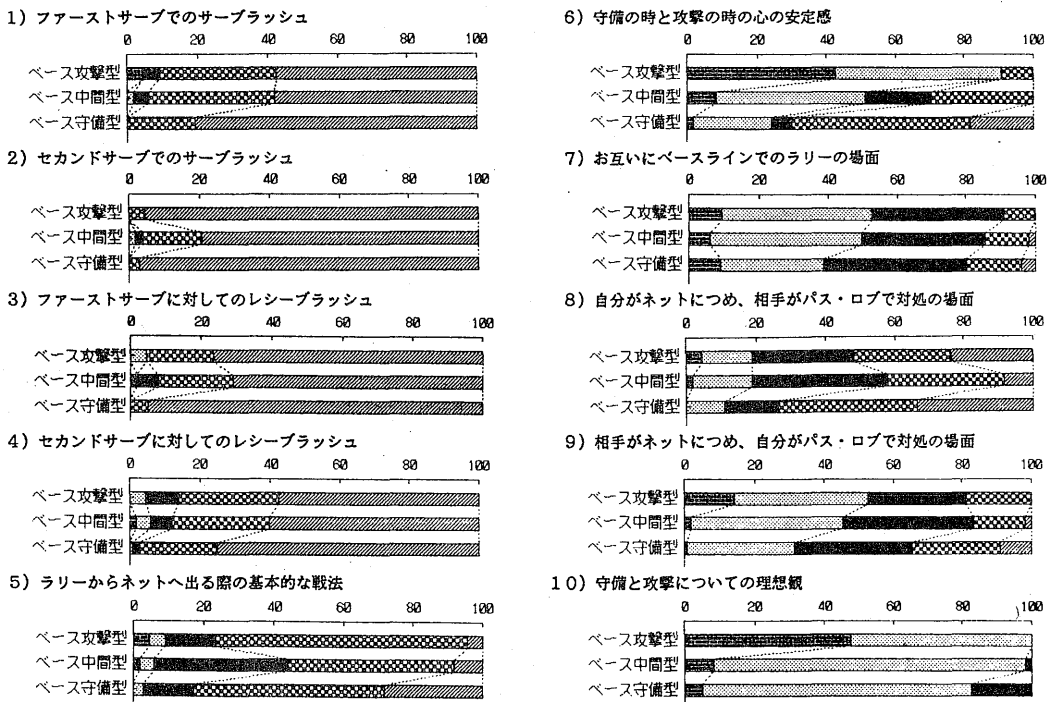


図5 ゲーム時のネットラッシュの頻度、場面に応じた心理的安定感について(そのV)

定するが90%と多いことから区別でき、ベースラインにいながらも、攻めていくものと思われる。

(2) ゲームでの技術的、心理的、及び体力的能力についての自己評価

テニスのゲームでの技術的、心理的、及び体力的能力についての自己評価からプレースタイルの特徴を比較検討した。

a ネット型、併用型、及びベース型について

図6の左側は、ネット型、併用型、及びベース型について、ゲームでの技術的、心理的、及び体力的能力に関する39の質問項目、それぞれの得点の平均と有意差検定の結果を示したものである。

技術的能力については、ネット型は併用型やベース型より、サーブ及びアプローチショットからつなぎと決めのボレー、及びスマッシュからなるネットプレーで有意に高かった。また、ベース型はネットプレーで得

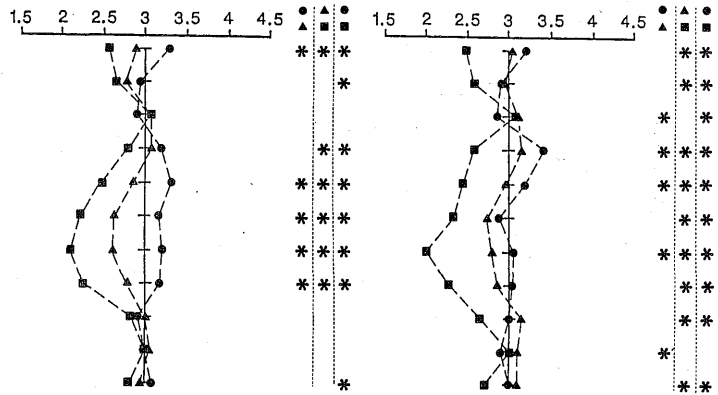
点が低かった。

心理的能力については、ネット型と併用型はベース型より、積極的にゲームを進める能力といえる決断力、自信、勇気、闘志、攻撃心等や予測能力で有意に高く、特に、攻撃心の得点が高かった。併用型はネット型とベース型の中間くらいであった。このことから、ネット型は心理的能力が高く、併用型やベース型とは区別しやすい。

体力的能力については、ネット型はベース型より、ベースラインでの持久力を除いた全項目で、さらに、併用型よりもネットでの持久力、素早さ等のネットでの動き、基礎体力である柔軟性、握力等で有意に高かった。併用型は心理的能力と同様にネット型とベース型の中間くらいであった。ベース型はネットでの素早さ、とっさの反応、リーチの広さで得点が低かった。これらのことから、ネット型は併用型やベース型より、技術的にはネットプレーに自信を持ち、心理的には全般的に

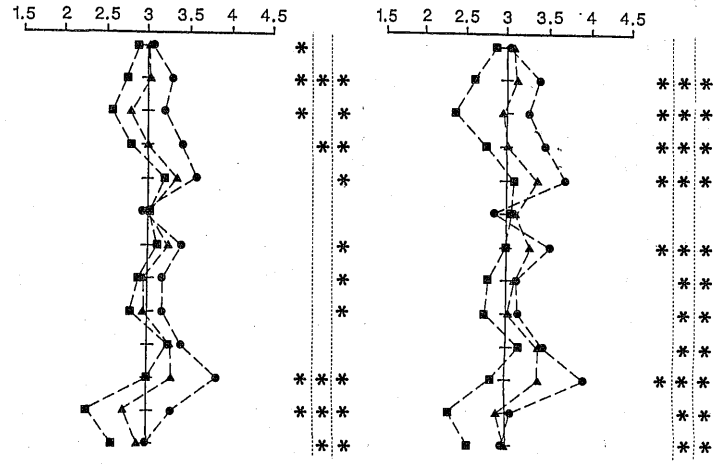
技術的能力

- 1) サーブ
- 2) レシーブ
- 3) ラリー中のつなぎのストローク
- 4) ラリー中の攻撃的ストローク
- 5) アプローチショット
- 6) つなぎのボレー
- 7) 決めのボレー
- 8) スマッシュ
- 9) パス
- 10) 守備的ロブ
- 11) 攻撃的ロブ



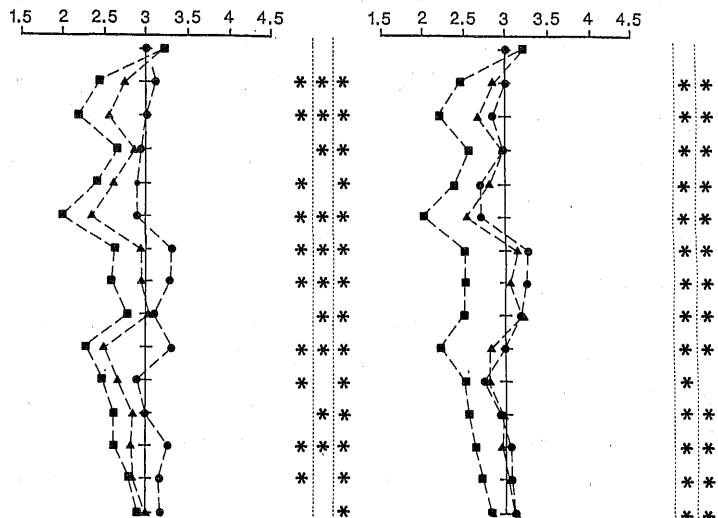
心理的能力

- 12) 集中力
- 13) 決断力
- 14) 自信
- 15) 勇気
- 16) 闘志
- 17) 忍耐力
- 18) 勝利志向性
- 19) 自己コントロール
- 20) あがりの防止能力
- 21) 根性
- 22) 攻撃心
- 23) ネットプレーにおける相手パッサーの打球に対する予測能力
- 24) 相手ネットプレーヤーの動きに対する予測能力



体力的能力

- 25) ベースラインで長くラリーを続けるのを繰り返すに必要な体力
- 26) ネットラッシュ及びネットプレーの瞬発的な動きを繰り返すに必要な体力
- 27) ネットプレーにおける相手のパス・ロブに対する素早い動き
- 28) ベースラインプレーにおける相手のボレー・スマッシュに対する素早い動き
- 29) ベースラインプレーで逆をつかれたときののどつぎの反応
- 30) ネットプレーで逆をつかれたときののどつぎの反応
- 31) サービスのスピード
- 32) スマッシュの威力
- 33) パスのスピード
- 34) ネットプレーにおけるリーチの広さ
- 35) 柔軟性
- 36) バランス
- 37) 功ち性
- 38) 握力
- 39) 協応性



スコア： 5 非常に優れている  
 4 やや優れている  
 3 普通  
 2 やや劣っている  
 1 非常に劣っている

●：ネット型  
 ▲：併用型  
 ■：ベース型

\*：p<0.05

●：攻撃型  
 ▲：中間型  
 ■：守備型

\*：p<0.05

図6 テニス能力の自己評価(そのI)

優位に立ち、特に攻撃心が強く、体力的にもサーブからネットでの動きばかりでなく、ベースラインでのそれも自信を持っているといえる。併用型はベース型より体力的には自信を持っているようである。ベース型は、ネットでの動きの悪さからネットへつくのをためらい、技術的にも体力的にもネットプレーに対する自信のなさを表しているといえる。

#### b 攻撃型、中間型、及び守備型について

図6の右側は、攻撃型、中間型、及び守備型についてゲームでの技術的、心理的、及び体力的能力に関する39の質問項目、それぞれの得点の平均と有意差検定の結果を示したものである。

技術的能力については、守備型は攻撃型より、つなぎのストロークで有意に高かった。攻撃型と中間型は守備型よりも全般的に得点が高く類似していた。守備型はアプローチショットからネットプレーで得点が低かった。

心理的能力については、攻撃型と中間型は守備型より、集中力、忍耐力を除いて有意に高かった。また、攻撃型は中間型よりも、積極的にゲームを進める能力のいくつかで有意に高かった。特に、攻撃型は闘志、攻撃心で得点が高かったが、これは、ゲームでの心理的安定感のところで述べたように心理的攻撃性が高いものと考えられ、H.P.Graham<sup>(7)</sup>の報告と一致する。

体力的能力については、攻撃型と中間型は守備型より、ベースラインでの持久力を除いて有意に高かったが、攻撃型と中間型はほとんど差が見られず類似していた。また、守備型はネットでの動きに関する項目で得点が低かった。これらのことから、攻撃型は中間型や守備型より、技術的にはネットやベースラインというコート上の位置に関係なく、攻撃的ショットには自信を持っているが、ベースラインでの守備的ショットには自信がないといえる。また、心理的には積極性に自信を持

ち、体力的にはベースラインでの粘りには自信がないようだが、このことが早くネットへつこうとする要因のひとつとも考えられる。中間型は、全体的に攻撃型に近い。守備型は、技術的にも体力的にもネットプレーに自信がなく、このため、ベース型と同様にベースラインでのプレーを中心にせざるをえないのかも知れない。また、守備型のゲームはベースラインでのプレーから勝利を目指すことが多いため、心理的には忍耐力、集中力が他に比べて自信があるのも理解できる。

#### c ネット—攻撃型、ネット—中間型、及びネット—守備型について

図7の左側は、ネット—攻撃型、ネット—中間型、及びネット—守備型についてゲームでの技術的、心理的、及び体力的能力に関する39の質問項目、それぞれの得点の平均と有意差検定の結果を示したものである。

技術的能力については、ネット—攻撃型はネット—守備型よりサービス、アプローチショットからネットプレー及びベースラインでの攻めのショットで、さらに、ネット—中間型よりもボレーで有意に高かった。逆につなぎのストロークはネット—守備型のほうがネット—攻撃型よりも有意に高かった。ネット—守備型はネットでの決めボレー、スマッシュで劣るが、ベースラインでの粘りに自信を持つといえる。ネット—中間型はネット—攻撃型とネット—守備型の間くらいであった。

心理的能力については、ネット—攻撃型はネット—守備型より、積極的にゲームを進める能力のいくつかと自己コントロール能力で有意に高かった。ネット—中間型はネット—攻撃型に類似していた。特に、ネット—攻撃型は勇気、攻撃心で得点が高かった。

体力的能力については、ネット—攻撃型はネット—守備型よりネットでの動きに関する項目のいくつかで有意に高かった。特に、ネット—守備型はネットでの持久力及びとっさの

反応で得点が低かった。これらのことから、ネット—攻撃型はネット—守備型より、技術的には攻撃的なショットに、心理的には攻撃型のところで述べたように、積極的に自分を高めていくような能力に、体力的にはネットプレーに自信を持っているが、逆にベースラインでの長いラリーには自信がないといえる。ネット—中間型はネット—攻撃型とあまり差はみられなかった。ネット—守備型はネットへつくことが多いにもかかわらずネットでの動きや決めショットに自信がなく、逆にベースラインでの粘りに自信を持つというようにわかりづらいスタイルといえる。

d 併用—攻撃型、併用—中間型、及び併用—守備型について

図7の中央は、併用—攻撃型、併用—中間型、及び併用—守備型についてゲームでの技術的、心理的、及び体力的能力に関する39の質問項目、それぞれの得点の平均と有意差検定の結果を示したものである。

技術的能力については、併用—攻撃型は併用—守備型よりネット、ベースラインでの攻撃的ショットで、また、併用—中間型は併用—守備型よりサーブ、攻撃的ストローク、パス、アプローチショットからネットプレーで有意に高かった。特に、併用—守備型は決めのボレーで得点が低かった。

心理的能力については、併用—攻撃型は併用—守備型より積極的にゲームを進める能力のいくつかとあがりの防止能力で有意に高かった。また、併用—中間型は併用—守備型より積極的にゲームを進める能力のいくつかと予測能力で有意に高く、特に攻撃心で得点が高かった。

体力的能力については、3つの型とも、かなり類似した傾向であった。併用—守備型はネットでのとっさの反応で得点が低かった。これらのことより、併用—攻撃型と併用—中間型は全体的にかなり類似しており、併用—守備型よりも技術的には攻撃的ショット、心

理的には積極的にゲームを進める能力に自信を持つといえる。

e ベース—攻撃型、ベース—中間型、及びベース—守備型について

図7の右側は、ベース—攻撃型、ベース—中間型、及びベース—守備型についてゲームでの技術的、心理的、及び体力的能力に関する39の質問項目、それぞれの得点の平均と有意差検定の結果を示したものである。

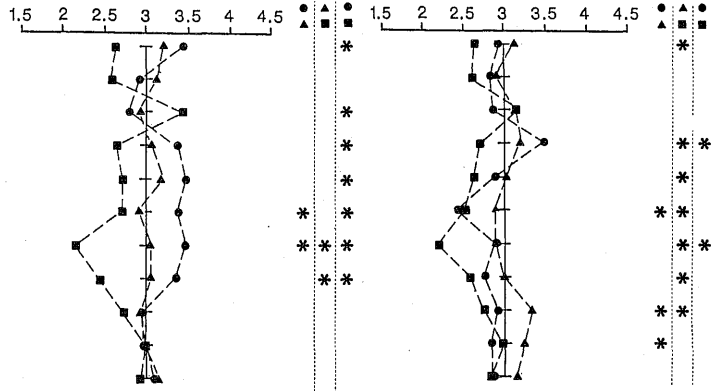
技術的能力については、ベース—攻撃型とベース—中間型はベース—守備型より攻撃的ショットのいくつかで有意に高かった。ベース—攻撃型とベース—守備型はネットプレーで得点が低く、特にベース—守備型はスマッシュに自信がなかった。

心理的能力については、ベース—攻撃型とベース—中間型はベース—守備型より積極的にゲームを進める能力のいくつかとベースラインでの予測能力で有意に高かった。ベース—攻撃型は忍耐力が、ベース—守備型はネットでの予測能力の得点が低かった。

体力的能力については、ベース—攻撃型はベース—守備型よりもボールスピードで有意に高かった。また、ベース—中間型はベース—守備型よりもネット及びベースラインでの動き、ボールスピード、基礎体力で有意に高かった。ベース—守備型はベースラインでのとっさの反応で、ベース—攻撃型はネットでのリーチの広さで得点が低かった。これらのことから、3つの型とも、技術的にはネットプレーに自信がないといえる。ベース—攻撃型とベース—中間型は全体的に類似したところが多いが、ベース—攻撃型の忍耐力のなさとで区別できる。ベース—守備型は体力的にスピードに自信がなく、ボールスピードや全体的な動きが遅いことも考えられる。

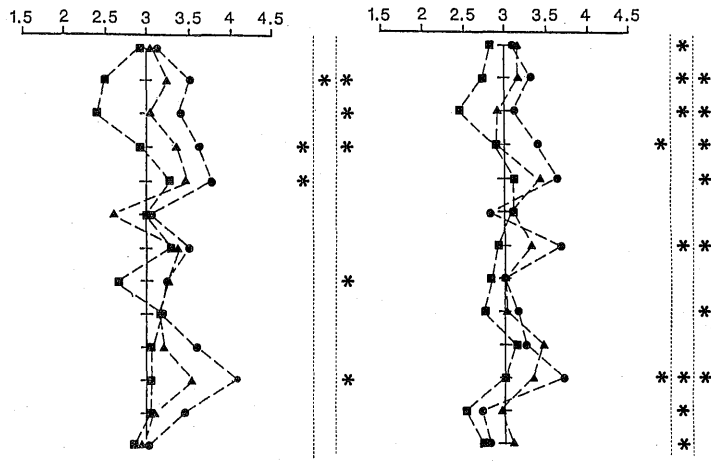
技術的能力

- 1) サーブ
- 2) レシーブ
- 3) ラリー中のつなぎのストローク
- 4) ラリー中の攻撃的ストローク
- 5) アプローチショット
- 6) つなぎのボレー
- 7) 決めのボレー
- 8) スマッシュ
- 9) パス
- 10) 守備的ロブ
- 11) 攻撃的ロブ



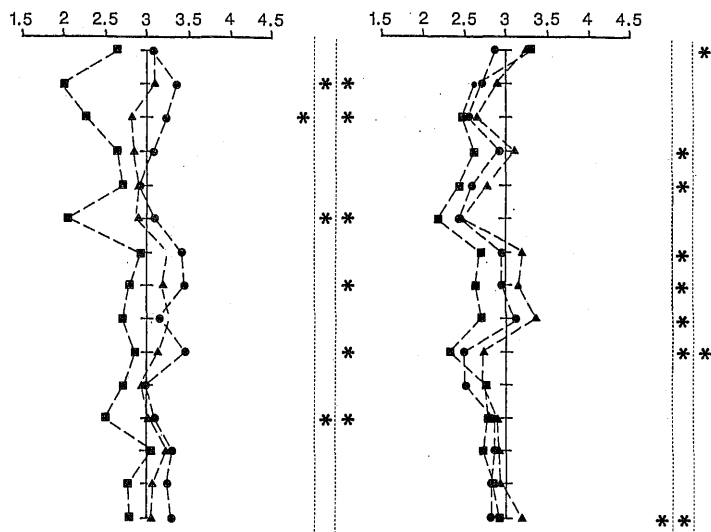
心理的能力

- 12) 集中力
- 13) 決断力
- 14) 自信
- 15) 勇気
- 16) 闘志
- 17) 忍耐力
- 18) 勝利志向性
- 19) 自己コントロール
- 20) あがりの防止能力
- 21) 根性
- 22) 攻撃心
- 23) ネットプレーにおける相手パッサーの打球に対する予測能力
- 24) 相手ネットプレーヤーの動きに対する予測能力



体力的能力

- 25) ベースラインで長くラリーを続けるのを繰り返すのに必要な体力
- 26) ネットスマッシュ及びネットプレーの瞬発的な動きを繰り返すのに必要な体力
- 27) ネットプレーにおける相手のパス・ロブに対する素早い動き
- 28) ベースラインプレーにおける相手のボレー・スマッシュに対する素早い動き
- 29) ベースラインプレーで逆をつかれたときのとつぎの反応
- 30) ネットプレーで逆をつかれたときのとつぎの反応
- 31) サーブのスピード
- 32) スマッシュの威力
- 33) パスのスピード
- 34) ネットプレーにおけるリーチの広さ
- 35) 柔軟性
- 36) バランス
- 37) 功ち性
- 38) 握力
- 39) 協応性



スコア： 5 非常に優れている  
 4 やや優れている  
 3 普通  
 2 やや劣っている  
 1 非常に劣っている

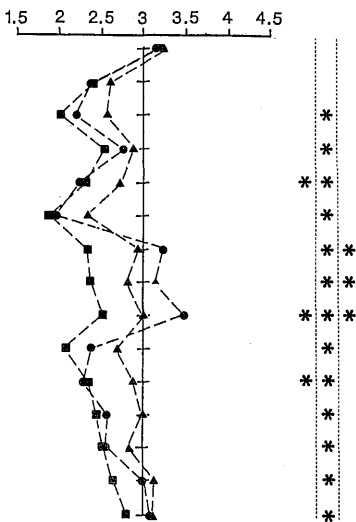
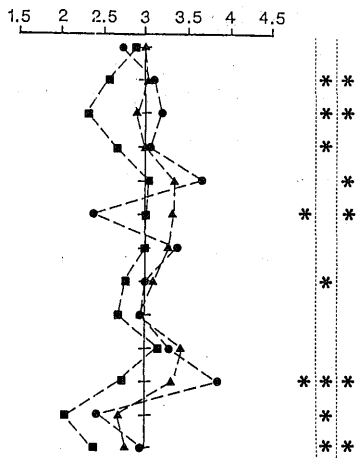
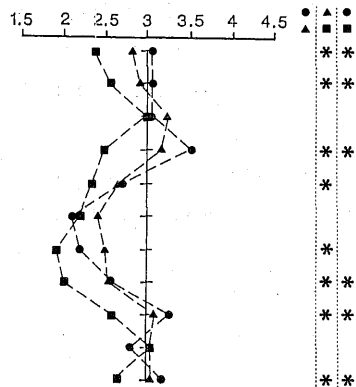
●：ネット攻撃型  
 ▲：ネット中間型  
 ■：ネット守備型

\*：p<0.05

○：併用攻撃型  
 ▲：併用中間型  
 ■：併用守備型

\*：p<0.05

図7 テニス能力の自己評価(そのII)



●: ベース攻撃型  
▲: ベース中間型  
■: ベース守備型

\*:  $p < 0.05$

#### IV まとめ

テニス選手のプレースタイルを分類し、それらが、どのような特徴を有するかを明らかにするために、関東大学テニスリーグの1部から3部までの部員440名(男子312名, 女子128名)を対象としてアンケート調査を行った。主な結果は以下の通りである。

- 1) 位置型分類ではベース型(166名), 併用型(158名), ネット型(116名)の順で、攻守型分類では守備型(171名), 中間型(140名), 攻撃型(129名)の順で多かった。
- 2) 位置型分類と攻守型分類を組み合わせると、ネット型ではネット—攻撃型が69名, ベース型ではベース—守備型が98名と、それぞれの約60%と多かった。併用型では併用—中間型が60名, 併用—守備型が59名で約37%ずつと偏りがみられなかった。
- 3) また、ネット型ではネット—守備型が12.1%, 併用型では併用—攻撃型が24.7%, ベース型ではベース—攻撃型が12.6%と少なかった。
- 4) 位置型分類によるスタイルの特徴については、ネット型はテニスの全般的な能力に自信を持っていた。ベース型はネットプレーに自信がなく, 併用型は2つの型の間であった。
- 5) また、位置型分類と攻守型分類を比較してみると、攻撃型はネット型と中間型は併用型と守備型はベース型と全体的に類似した傾向であった。
- 6) 位置型分類と攻守型分類の組み合わせによるスタイルの特徴については、ネット—攻撃型はテニスの全般的な能力に自信を持っているが, ネット—守備型はネットプレーに自信がないようであった。また、ベース—守備型は忍耐力に、ベース—攻撃型は攻撃的ショットや積極

的にゲームを進める能力に自信を持っていた。

[付記：本研究を進めるにあたり，宇都宮大学の海野孝助教授には有益な示唆を賜った。ここに記して感謝いたします。]

### 引用文献

- ①藤善尚憲，テニス，不昧堂書店，P 25～32，1976
- ②米テニスマガジン編，最新テニス百科，P 152～167，1980
- ③福田雅之助，テニス（硬式），旺文社，P 128，1967
- ④現代スポーツ百科辞典，大修館書店，P 370～376，1971
- ⑤新修体育大辞典，不昧堂書店，1976

- ⑥久保田秀明，テニスにおける心理的適性に関する研究（その1）～プレースタイルとの関連について，日本体育学会第37回大会号，P 191，1986
- ⑦Hatcher,P.G., "An investigation of the interrelationships existing among psychological aggression, court aggression and skill in male and female inter-collegiate tennis players," Doctoral dissertation, Perbody college for teachers, 1979

### 参考文献

- ①岩原信九郎，教育と心理のための推計学，日本文化科学社，P 180～190，1986
- ②三宅一郎・山本嘉一郎，SPSS統計パッケージ，東洋経済新報社，1983
- ③司馬正次，データ解析入門，東洋経済新報社，P 83～166，1985



資料

I、以下の1～3の項目は、あなたがシングルの試合中にどの程度ネットラッシュを行なっているかについての質問です。それぞれ①～⑤の中からあてはまるものをひとつ選んで下さい。コートや対戦相手によって異なると思いますが、コートは中程度の速さ、対戦相手は同程度の実力とし、あなたが日頃行なっているプレースタイルで答えて下さい。

- 1、サーブラッシュは
  - (1) ファーストサービスでは
  - (2) セカンドサービスでは
    - ① 殆どすべてのポイントで行なう (80-100%)
    - ② サーブラッシュのほうが多い (60-80%)
    - ③ ほぼ半々 (40-60%)
    - ④ サーブラッシュしないほうが多い (20-40%)
    - ⑤ 殆どサーブラッシュはしない (0-20%)
- 2、リターンラッシュは
  - (1) ファーストサービスに対して
  - (2) セカンドサービスに対して
    - ① 殆どすべてのポイントで行なう (80-100%)
    - ② リターンラッシュのほうが多い (60-80%)
    - ③ ほぼ半々 (40-60%)
    - ④ リターンラッシュしないほうが多い (20-40%)
    - ⑤ 殆どリターンラッシュはしない (0-20%)
- 3、お互いにベースラインでのラリーからどちらかがネットへ出るときの展開では
  - ① 自分がネットをとることのほうが圧倒的に多い
  - ② 自分がネットをとることのほうがやや多い
  - ③ ほぼ半々
  - ④ 相手がネットをとることのほうがやや多い
  - ⑤ 相手がネットをとることのほうが圧倒的に多い

II、あなたはシングルの試合でグラウンドストロークのラリーからネットへ出るといふ展開において、基本的にどの様な戦法を心掛けていますか。また、その背景として攻撃と守備についてどの様な考えを持っているのですか。以下の1～4の項目について、それぞれ①～③または①～⑤の中からあてはまるものをひとつ選んで下さい。同じく、コートは中程度の速さ、対戦相手は同程度の実力として答えて下さい。

- 1、ラリーからネットへ出るときのあなたの基本的な戦法は
    - ① グラウンドストロークのラリーで優勢にならなくとも、ともかくラリーが長くなるのを避け、できるだけ早くネットにつこうとする
    - ② グラウンドストロークで早めに攻撃をしかけ、相手より早くネットにつこうとする
    - ③ つなぐところはつなぎ、機を見て攻撃し、優勢になってからネットへつこうとする
    - ④ ネットよりベースラインでプレーすることを好むが、相手から浅いチャンスボールがきたときは、ネットにつく
    - ⑤ よほど浅いボール以外(ドロップショット等)はできるだけネットにでないようにする
  - 2、攻撃と守備についてあなたの理想とするテニス観は
    - ① どちらの攻撃力が優れているかを争うことこそテニスの本質だとおもう一攻撃型
    - ② 攻撃と守備をミックスした確率のテニスこそテニスの本質だとおもう一頭脳型
    - ③ 相手がミスするまで粘り強く返球することこそテニスの本質だとおもう一守備型
  - 3、では、あなたが現在行なっているプレースタイルはどちらに分類されますか。
    - ① 典型的な攻撃型
    - ② 攻撃型に近い
    - ③ 併用型
    - ④ 守備型に近い
    - ⑤ 典型的な守備型
  - 4、あなたは、攻撃をしているときと守備にまわっているときとどちらが心が安定していますか(どちらが不安になりますか)
    - ① 攻撃していたほうが安定感がある(守っていると攻撃されそうで不安でしかたがない)
    - ② 攻撃していたほうが多少安定感がある(守っていると攻撃されそうで多少不安になる)
    - ③ どちらでも安定感がある(どちらでも不安はない)
    - ④ 守っていたほうが多少安定感がある(攻撃しようとするミスしそうで多少不安になる)
    - ⑤ 守っていたほうが安定感がある(攻撃しようするとミスしそうで不安で仕方がない)
- III、あなたは、シングルの試合で以下の1～3の場面に置かれたとき、自分に有利に展開している(攻撃しているという実感がある)と思いますか、それとも不利に展開している(不安でしかたがない)と思いますか。それぞれ①～⑤の中からあてはまるものをひとつ選んで下さい。同じく、コートは中程度の速さ、対戦相手は同程度の実力として答えて下さい。
- 1、お互いにベースラインでのラリーの場面は
    - ① きわめて有利である
    - ② やや有利である
    - ③ どちらともいえない
    - ④ 多少不安である
    - ⑤ 不安で仕方ない

2、自分がネットにつめ、相手がバス・ロブで対処の場面は

- ①きわめて有利である
- ②やや有利である
- ③どちらともいえない
- ④多少不安である
- ⑤不安で仕方がない

3、相手がネットにつめ、自分がバス・ロブで対処の場面は

- ①きわめて有利である
- ②やや有利である
- ③どちらともいえない
- ④多少不安である
- ⑤不安で仕方がない

IV、あなたはシングルス試合における自分の技術、心理、体力それぞれの能力についてどのように評価していますか。以下の技術、心理、体力に関する各項目についてa～eの中から、あてはまるものをひとつ選んで下さい。

1、技術

- ①サーブは
- ②レシーブは
- ③ラリー中のつなぎのストロークは
- ④ラリー中の攻撃的ストロークは
- ⑤アプローチショットは
- ⑥つなぎのボレーは
- ⑦決めのボレーは
- ⑧スマッシュは
- ⑨バスは
- ⑩守備的ロブは
- ⑪攻撃的ロブは

- a 非常に優れていると思う
- b やや優れていると思う
- c 普通
- d やや劣っていると思う
- e 非常に劣っていると思う

2、心理

- ①集中力は
- ②決断力は
- ③自信は
- ④勇気は
- ⑤闘志は
- ⑥忍耐力は
- ⑦勝利志向性は
- ⑧自己コントロール能力は
- ⑨あがりの防止能力は
- ⑩根性は
- ⑪攻撃心は
- ⑫ネットプレーにおける相手バッサーの打球に対する予測能力は
- ⑬相手ネットプレーヤーの動きに対する予測能力は

3、体力

- ①ベースラインで長くラリーを続けるのを繰り返すのに必要な体力は
- ②ネットラッシュ及びネットプレーの瞬発的な動きを繰り返すのに必要な体力は
- ③ネットプレーにおける相手のバス・ロブに対する素早い動きは
- ④ベースラインプレーにおける相手のボレー・スマッシュに対する素早い動きは
- ⑤ベースラインプレーで逆をつかれたときのとっさの反応は
- ⑥ネットプレーで逆をつかれたときのとっさの反応は
- ⑦サーブのスピードは
- ⑧スマッシュの威力は
- ⑨バスのスピードは
- ⑩ネットプレーにおけるリーチの広さは
- ⑪柔軟性は
- ⑫バランスは
- ⑬巧み性は
- ⑭握力は
- ⑮協応性は